

マダニによる感染症にご注意!

マダニの多くは春から秋にかけて活動が活発になり、マダニが媒介するウイルス性感染症「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」が増加します。

発症すると重症化することも多く、有効な治療法もワクチンもないため、感染予防が特に重要です。

◆マダニとは

- 森林や草地などの屋外に生息する比較的大型のマダニ
- 食品や衣類などに発生する家庭にいるマダニとは全く種類が異なる
- シカやイノシシなどの野生動物が出没する環境に多く生息し、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息する
- 皮膚の柔らかいところ(わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭など)を探して咬みつく

◆「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」とは

【病原体】SFTSウイルス
【好発時期】春から秋
(5月～8月が多い)

【潜伏期間】マダニに咬まれてから6日～2週間

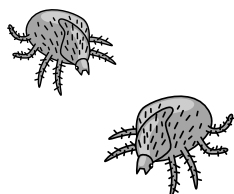
【症状】主に発熱や消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)が出現し、時に頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡)、呼吸器症状(咳など)、出血症状(紫斑)をおこす

◆予防について

マダニに咬まれないために予防をすることが重要です。

農作業や庭仕事、レジャーなど野外で活動する際にはマダニから身を守る服装をし、直接地面に腰を下したりせず、敷物やイスを使用しましょう。

屋外活動後はシャワーや入浴をしてマダニがついていないか確認しましょう。



◆もしマダニに咬まれてしまったら

マダニに咬まれても痛みや痒みは少なく、気が付かないことが多いようです。

吸血中のマダニに気が付いたら、つぶしたり、無理に引き抜いたりせずに医療機関で処置を受けて下さい(マダニを無理に取り除こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあります)。マダニに咬まれたら数週間程度

は体調の変化に注意し、発熱などの症状が認められた場合は、すぐに医療機関で診察を受けてください。

○お問い合わせ

本庁健康福祉課保健衛生係

☎ 43-2836(直通)

佐賀支所 地域住民課保健センター

☎ 55-7373(直通)

マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう!

首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。

シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れてみましょう。

シャツの裾はズボンの中に入れてみましょう。

農作業や草刈などではズボンの裾は長靴の中に入れてみましょう。

ハイキングなどで山林に入る場合は、ズボンの裾に靴下を被せましょう。

半ズボンやサンダル履きは不適当です!



タカサゴキララマダニ



フタトゲチマダニ